



KAMIAMAKUSA CITY GRAND DESIGN

上天草市 グランドデザイン

上天草市らしさのある暮らしの喜び・幸せ・誇りを感じるまちへ

～「観光ブランド力を活かした地域産業の活性化」により
「上天草らしい満足感のある定住環境の充実」をめざす～



目次

序章 グランドデザインとは ～計画の趣旨～	1
1 計画策定の趣旨	1
2. 上天草市の現況・取り巻く社会動向	2
3. これからの上天草市の重点課題	9
4. グランドデザインに求められる視点	11
第1章 グランドデザインのコンセプト	12
1 グランドデザインの目指す将来像	12
2 将来像を実現していくための戦略シナリオ	13
3 グランドデザインの全体図	16
第2章 グランドデザインの具体的な戦略展開案	18
1 戦略シナリオ1 観光ブランド力を活かした地域産業の活性化	18
2 戦略シナリオ2 上天草らしい満足感のある定住環境の充実	27

序章 グランドデザインとは ～計画の趣旨～

1 計画策定の趣旨

上天草市では、平成 16 年 3 月 31 日に 4 町が合併し、新しい市としてスタートしました。以来、行政、地域の企業・団体・市民が「まちづくり」を進めてまいりました。

本市は、有数の観光資源を持ち、これを有効に整備・活用することで、活気溢れる「まちづくり」が可能ですが、今までの取組みは、個々の地域や実施主体による「点」の取組みに終始することがほとんどで、それぞれの地域の特徴を活かし、その調和を図りながら一体的に展開する「面」としての取組みがなされていませんでした。

間もなく市政 10 周年を迎える本市では、「上天草市グランドデザイン」を策定しました。このグランドデザインは、本市の豊富な観光資源を活かした「まちづくり」を実施するに当たり、中・長期的な観点に立ち、旧町の枠組みをこえて、官民が連携して行うべき観光資源の整備・活用の在り方、ひいては将来の観光都市上天草市のビジョンを示すものです。

今後、このグランドデザインを「まちづくり」の戦略ビジョンと捉え、行政、地域の企業・団体・市民で共有し、官民が一体となり、それぞれの役割を担いながら、グランドデザインに沿った新たな「まちづくり」の実現に取り組むことを想定しています。また、グランドデザインを「本市が目指す将来の姿」として、官民による事業戦略への活用や対外的なイメージ戦略・PR 戦略への活用も期待され、様々な機会を捉え、この戦略を市外へ発信したいと考えています。

2. 上天草市の現況・取り巻く社会動向

(1) 人口減少・少子高齢化の進行

取り巻く社会動向

人口減少社会の時代に入り、少子高齢化がさらに顕著になってくることで、社会保障費の増大、労働力人口の減少等、これまで社会を支えてきた仕組みが大きく揺らいできています。

また、高齢化が進む中で、活力のある地域社会を維持・増進していくためには、増加する高齢者の豊富な社会経験や知識を活かし、地域の担い手として活躍できる環境づくりが必要であり、高齢者一人ひとりの能力が発揮できるよう就業支援や地域社会への参加促進が求められています。

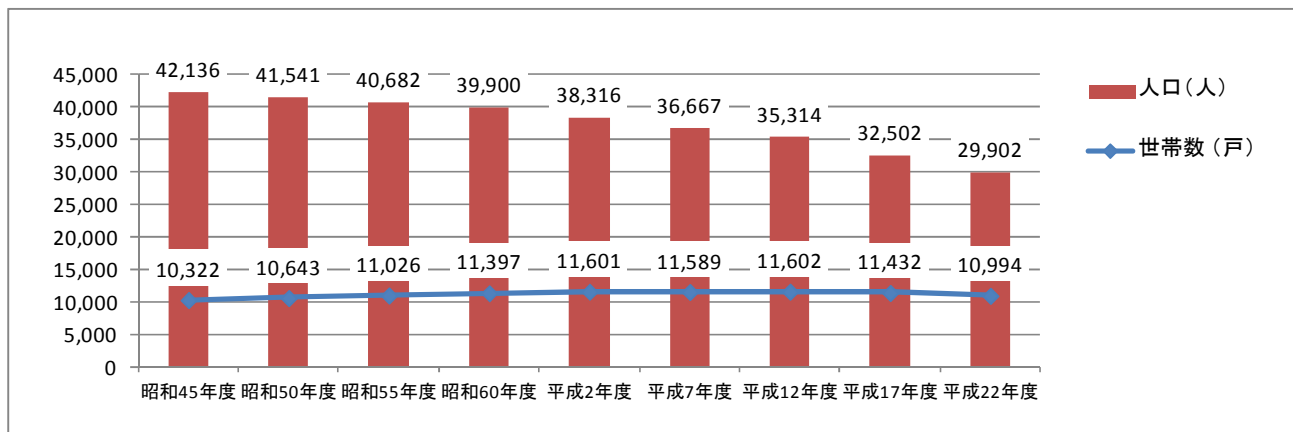
本市の現況

本市の人口は、[図1]のとおり、平成17年度国勢調査で32,502人、11,432世帯、平成22年度国勢調査で29,902人、10,994世帯となっており、人口の減少傾向が続いています。特に直近10年間で5,000人以上の人口が減少しており、減少傾向が顕著になっています。

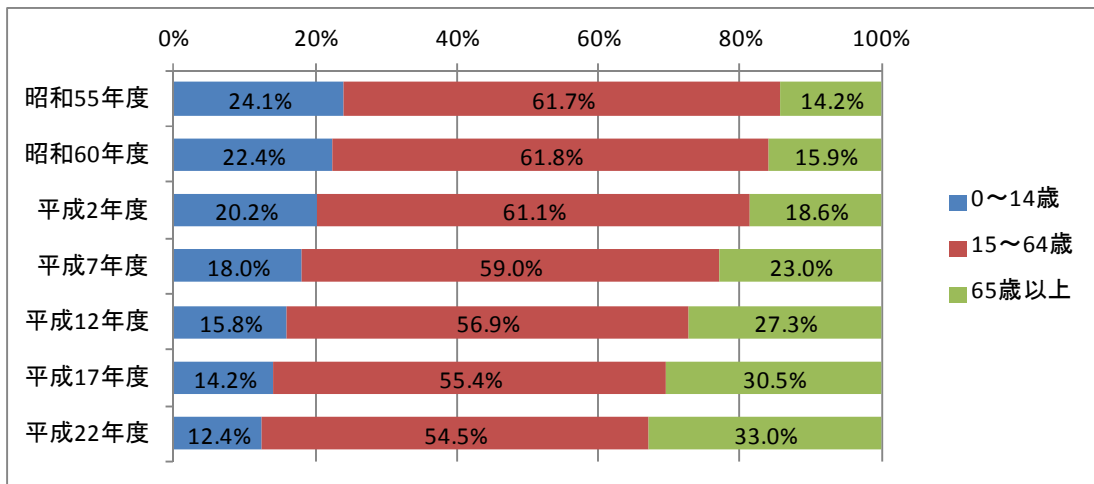
平成22年度国勢調査でみる年齢階層別の割合は、[図2]のとおり、0～14歳の年少人口が12.4%、15～64歳の生産年齢人口が54.5%、65歳以上の老年人口が33.0%です。昭和55年度以降の推移をみると、0～14歳の年少人口の割合が低下する一方で65歳以上の老年人口の割合が上昇しており、少子高齢化が年々進んでいます。また、1世帯あたりの人数は、平成12年度3.04人から平成22年度2.72人と減少し、核家族化が進んでいます。

[図3]のとおり、国立社会保障・人口問題研究所による人口推計によれば、本市の人口減少は今後も続き、平成32年度には約25,000人、平成42年度には約20,000人となると推計されています。

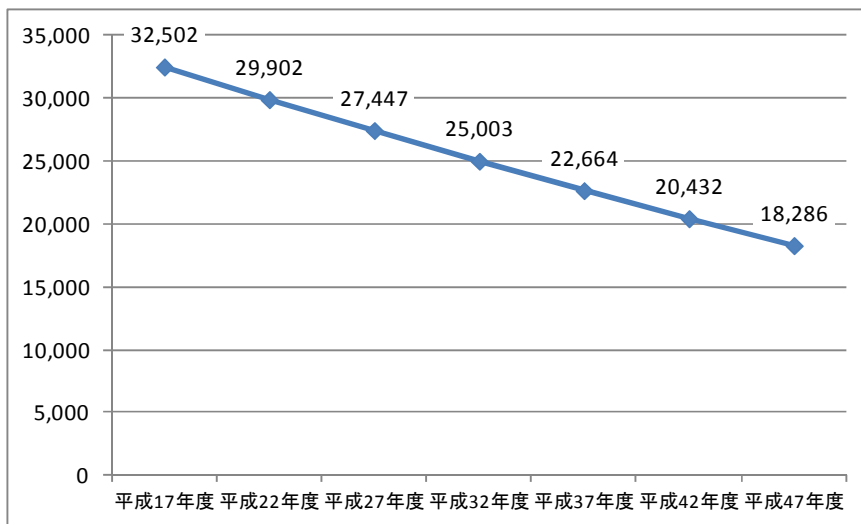
[図1]人口・世帯数の推移（出典：国勢調査）



[図2]年齢3区分構成比の推移（出典：国勢調査）

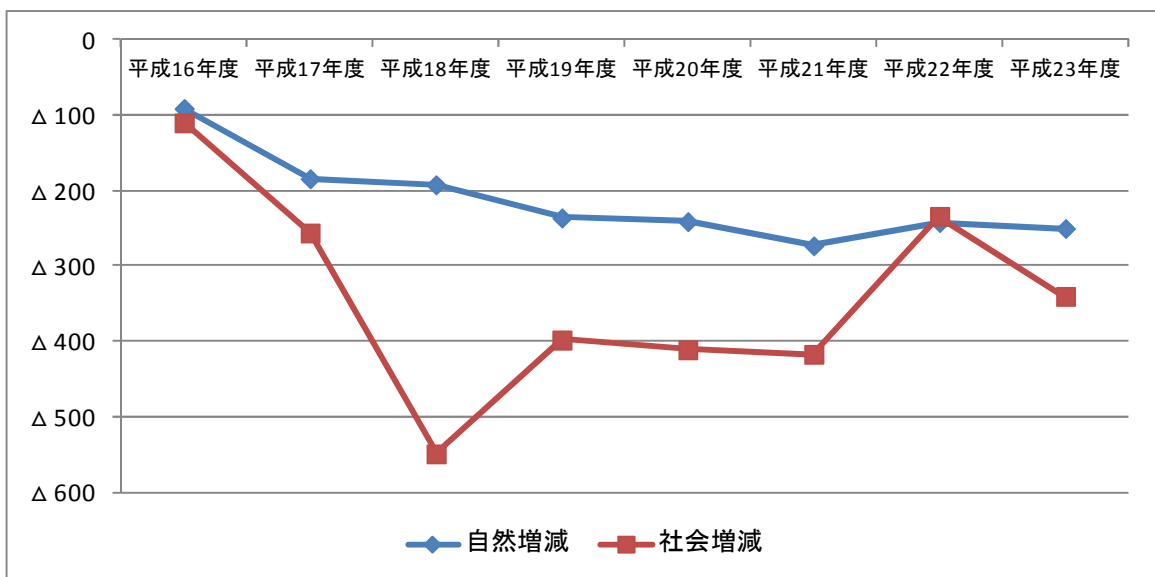


[図3]将来人口の推計（出典：国立社会保障・人口問題研究所資料）



近年の人口動態を見ると、[図4]のとおり、社会減（市外に市民が転出することによる人口減少）が自然減（死亡による人口減少）を上回っています。

[図4]自然増減・社会増減の推移（出典：熊本県推計人口調査）>



(2) 経済成長の低下・産業構造の変化

取り巻く社会動向

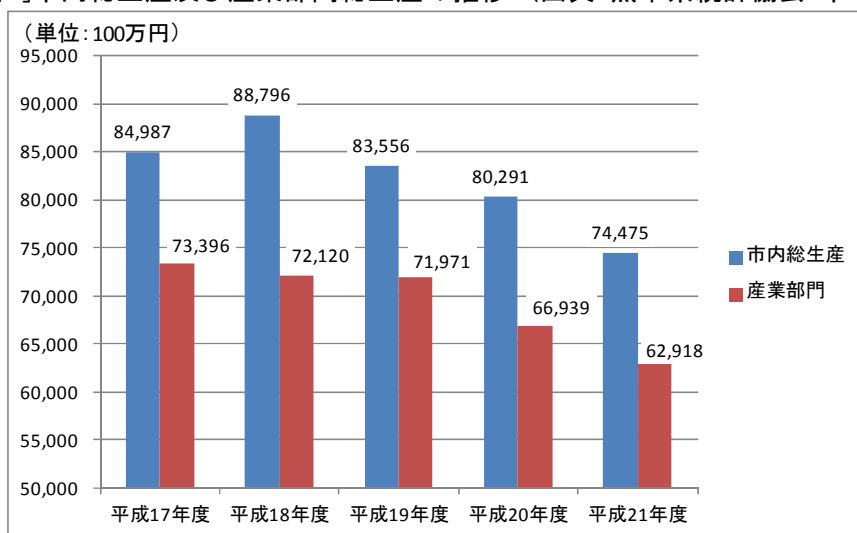
中国を中心とした東アジア各地域の急速な経済成長と産業構造の高度化が進む中で、東アジア地域での生産ネットワークの構築や経済連携の動きが活発化し、人材・資源・情報等の交流拡大による経済のグローバル化が進んでいます。

一方、国内経済は、デフレや円高の影響により、厳しい雇用情勢が続いており、今後も、日本経済の先行きに対する不透明感は依然として強く、引き続き楽観が許されない状況となっています。

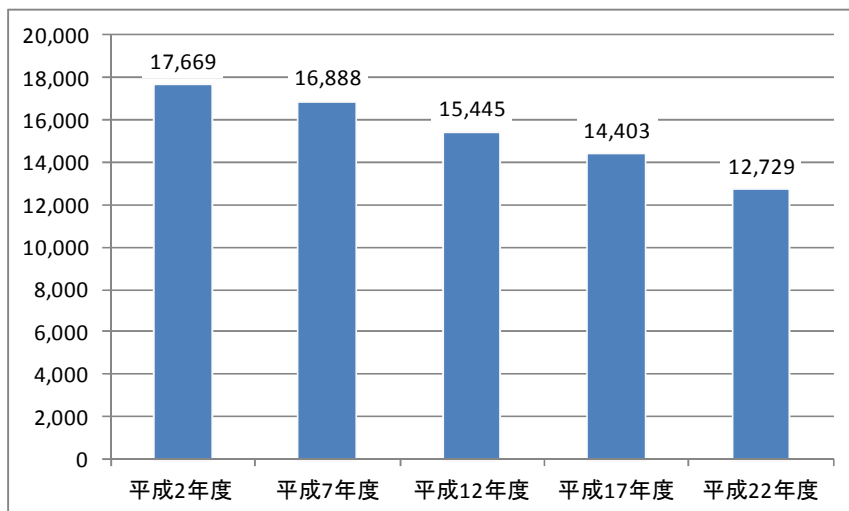
本市の現状

本市の経済活力の指標となる市内総生産（GDP）は、[図5]のとおり、平成18年度から継続して減少しています。また、本市の就業者人口についても、[図6]のとおり、平成2年度以降、減少傾向となっています。

[図5]市内総生産及び産業部門総生産の推移（出典：熊本県統計協会・市町村民所得推計）



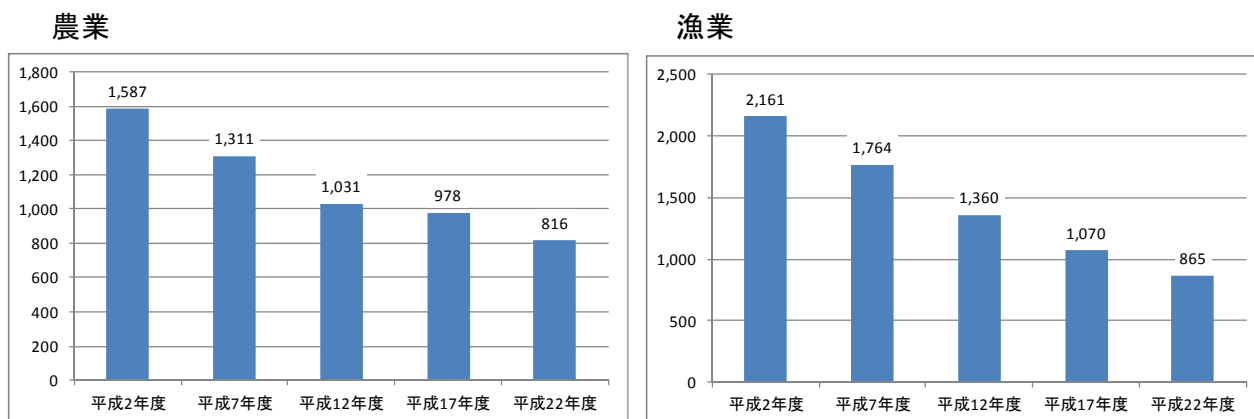
[図6]市内就業者人口の推移（出典：国勢調査）



●農業・漁業

第1次産業である農業・漁業については、[図7]のとおり、ともに就業者数の減少傾向が続いています。農漁産物の販売価格の低迷等による生産性の低下が厳しさを増しており、収益力のある産業構造への展開が求められています。また、平成22年度世界農林業センサスによると農業に従事する就業者のうち70%が65歳以上となっているなど、就業者の高齢化と担い手の確保が課題となっています。

[図7]農業・漁業就業者数の推移（出典：国勢調査）

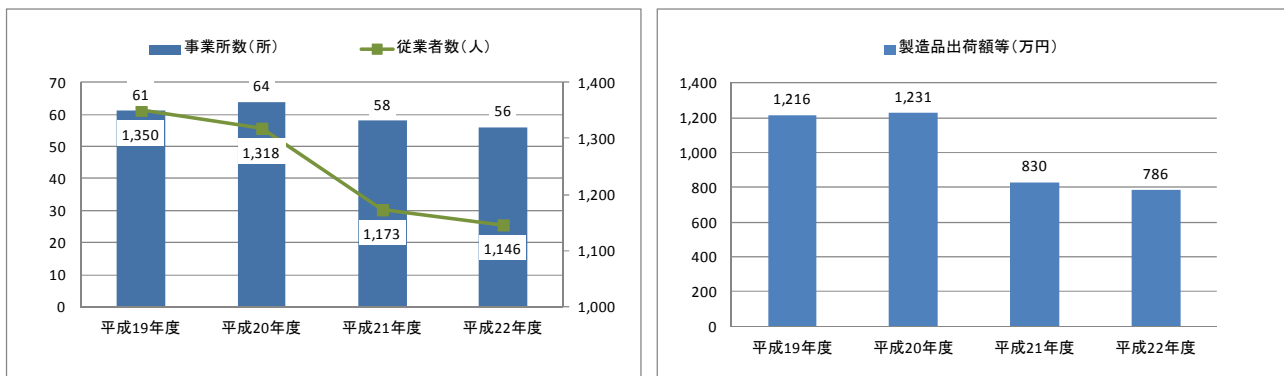


●工業・商業

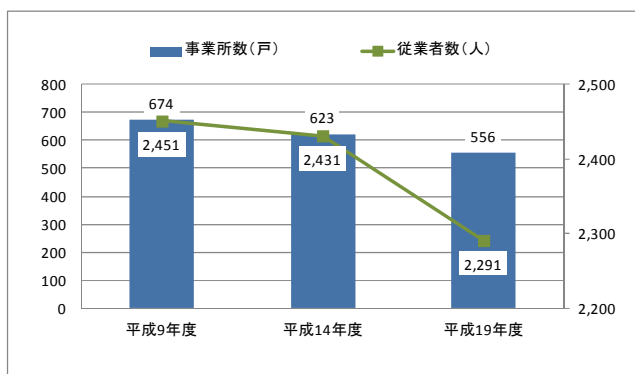
工業については、[図8]のとおり、平成19年度工業統計調査では、従業者4人以上の事業所は61事業所、従業者数は1,850人、平成22年度工業統計調査では、同様の事業所における事業所数は56事業所、従業者数は1,146人となり、いずれも減少傾向が続いています。[図9]のとおり、製造品出荷額等についても同様に減少傾向となっています。また、企業誘致もこれまで8社の誘致が進められてきましたが、昨今の経済状況やまとまった広さの工業団地がないこと等から市の経済回復につながる大型企業等の誘致は厳しい状況にあります。

商業については、[図10]のとおり、平成19年度商業統計調査では、事業所数は556事業所（卸売業65事業所、小売業491事業所）、従業者数は2,291人（卸売業約338人、小売業約1,944人）となっており、大矢野・松島地区に商業集積が見られます。

[図8]工業事務所・従業者数の推移（出典：工業統計調査） [図9] 製造品出荷額等の推移（出典：工業統計調査）



[図10] 商業事務所・従業者数の推移 (出典: 商業統計調査)



(3) 観光交流の多極化

取り巻く社会動向

わが国においては、平成 15 年度に観光立国行動計画が策定されて以降、外国人に訪日を促す「ビジット・ジャパン・キャンペーン」が展開されており、訪日外国人旅行者数 3,000 万人を将来目標に中国をはじめとする東アジア諸国及び米国を中心に効果的・効率的な海外プロモーションを展開しています。

こうした国の動向にあわせ、全国各地の自治体において、観光を地域活性化の重点分野として捉え、地域が持つ固有の観光資源の活用、伝統文化等の新たな観光資源の掘り起こしや地域情報発信及び地域住民など多様な主体が参加した交流の促進などによる積極的な観光振興が図られています。

また、近年の観光客の動向は、訪れた土地の歴史や文化、食、住民との触れ合いを求める“時間消費型”の観光に変わりつつあり、グリーンツーリズム、エコツーリズム等の体験観光や産業遺産を巡る産業観光、さらにメディカルツーリズムなどが新たなツーリズムとして台頭してきています。

本市の現状

本市を含む天草地域の観光入込客数は、[図11]のとおり、近年 400 万人台で推移し、内、約 150 万人が県外から訪れている観光客となっています。

特に、本市は[図12]のとおり、自然と天草五橋のおりなす美しい景勝、海水浴、釣り、登山、自然を楽しむレジャーの充実、各種行楽型イベントの開催、豊かな海の幸、山の幸を堪能する物産施設など、見て・遊んで・食べる多彩な観光資源を有しており、この観光資源を活かした更なる活性化が期待されます。

[図11] 天草地域の観光入込客の推移 (出典: 熊本県観光統計)

	観光客入込数 (千人)	日帰・宿泊別		県外・県内別	
		日帰	宿泊	県外	県内
平成18年	4,090	3,494	596	1,444	2,645
平成19年	4,101	3,511	590	1,556	2,554
平成20年	3,887	3,361	526	1,467	2,419
平成21年	3,976	3,430	546	1,501	2,475
平成22年	4,339	3,826	513	1,534	2,805

[図12]上天草市の観光資源

観光資源	エリア	観光資源	エリア
●歴史文化にふれる観光資源		●自然に親しむ観光資源	
湯島(談合島)	大矢野	白湊海水浴場	大矢野
長砂連装飾古墳	大矢野	唐船ヶ浜海水浴場	大矢野
大矢野城跡	大矢野	熊本県水産研究センター	大矢野
大戸鼻古墳群	松島	パールサンビーチ(樋合海水浴場)	松島
澄泉寺跡五輪の塔群	松島	イルカウォッチング	松島
向陽寺の雨乞いの鐘	松島	永浦島のハクセンシオマネキ	松島
金性寺	松島	白嶽森林公園(白嶽湿地)	姫戸
姫石神社	姫戸	小島公園キャンプ場	姫戸
永目神社のアコウ樹	姫戸	龍ヶ岳山頂自然公園	龍ヶ岳
矢岳巨石群遺跡	姫戸	外平海浜自然観察公園	龍ヶ岳
藤田家大庄屋跡	龍ヶ岳	●観光施設・物産館等	
開山塔	龍ヶ岳	上天草物産館 さんばーる	大矢野
観乗寺	龍ヶ岳	天草ビジターセンター	松島
		海中水族館「シードーナツ」	松島
		フィッシャリーナ天草	松島
		スパ・タラン天草	大矢野
		ミュージア天文台	龍ヶ岳

(4) 環境保全・循環型社会への移行

取り巻く社会動向

地球温暖化は、今後も地球レベルでの気温・海水面の上昇、洪水、高潮、干ばつ等の異常気象の増加及び様々な生態系の変化等をもたらし、広範な影響を及ぼしていくことが予想されています。

また、昨今の原発問題に端を発し、従来のエネルギーから脱却した新たな再生可能エネルギーへの関心が高まっており、環境保全や省エネルギー活動をあわせたエコライフスタイルが定着しつつあります。

こうした地球環境との共生を考え、地域の豊かな自然と暮らしのバランスのとれたまちを目指すエコフレンドリーなまちづくりがこれからの持続可能な社会の重要な要素となっています。

本市の現状

雲仙天草国立公園に指定される豊かな海洋景観をはじめ、自然環境に恵まれた本市では、自然と共生したまちづくりを目指し、海の日クリーン作戦や学校における環境教育の推進、アダプトプログラムの実施など、様々な環境保全・景観保全に向けた取組みを進めています。

今後も、豊かな自然環境と共生するエコフレンドリーなまちを目指すことが必要です。また、再生可能エネルギーの導入等先進的な取組みも求められます。

一方、本市の統計では、下水道や合併処理浄化槽等の生活排水処理施設の普及率は本市の約全世帯の40%にしか至らず、海洋保全の観点からも汚水処理対策が課題となっています。

(5) 地域主権の進展と住民主体のまちづくり

取り巻く社会動向

国の構造改革や、国と地方の役割を見直す地方自治制度の改革が進む中、地方自治体は国から権限や税源の移譲を受け、新しい地域主権社会を自らの力で作り上げる必要性が高まっています。

これからの地方自治体は、住民に最も身近な行政主体として、多様化するニーズに迅速性や柔軟性をもって対応できる質の高いサービスを提供するとともに、地域特性や既存の地域資源等を活かした地域主体のまちづくりの推進がより求められています。

本市の現状

本市においては、これまで第1次上天草市総合計画に基づき、市民への身近な行政サービスの提供を進めるとともに、市内13地区において、公民館を中心とした「まちづくり委員会」が組織され、市民の主体的なまちづくりを進めてきました。

しかし、人口減少や少子高齢化が進む中、これまで地域を支えてきたコミュニティの組織力が弱体化しており、各地域のまちづくりを支える担い手の不足、地域内でのコミュニケーションの希薄化が進んでいます。

本市が自立した地域主権社会を構築していくためには、地域の強み・特性を活かし、住みやすいまちに向けて市民と行政がともに主体的にまちづくりに取り組んでいくことが必要であり、地域を支えるコミュニティの再構築が必要となっています。

(6) 地方財政の逼迫

取り巻く社会動向

景気の低迷による税収の伸び悩みや、以前として不透明な経済動向の中で、今後も地方都市においては財源の確保が厳しい状況が続くことが予想されます。効率的な行政運営を行い、限りある財源を効果的に活用してまちづくりを進めていくためには、行政、地域の企業・団体・住民がそれぞれの役割に基づいて主体的にまちづくりに取り組んでいくことが必要となります。

本市の現状

本市においても三位一体の改革以降、地方交付税が大きく減少する中、職員の定員の適正管理、事務事業の点検、繰上償還による公債負担の適正化等の行財政改革を進めることで財政運営の健全化を進めてきました。

しかし、人口減・少子高齢化に伴い、社会保障等の義務的経費の増大は更に進むと考えられ、財政の硬直化は今後高止まりすると思われ、安定した税収の確保に向けた対策は市政運営のより重要課題となってきます。

[図13]上天草市の財政指標の推移

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
経常収支比率	99.0	99.3	97.4	95.0	91.7	85.2	90.7
財政力指数	0.25	0.27	0.28	0.29	0.28	0.27	0.26
実質公債費比率	18.4	18.9	18.0	17.4	16.1	14.7	13.5
地方債現在高	24,053	23,576	22,735	21,519	20,427	19,869	19,331

3. これからの上天草市の重点課題

(1) 上天草市が直面する3つの重点課題

前項の「本市の課題」が示す通り、本市の地域活力低下の大きな要因は「定住人口の減少」「経済的活力の低下」「地域コミュニティ力の低下」の3つの課題の負の連鎖にあると言えます。この3つの課題は未来の豊かな暮らしを築く上で克服していかなければいけない重要な課題であり、この課題を解決し、地域を再生していくモデルを示していくことがランドデザインに課せられた最大の命題であると考えます。

■ 上天草市の地域活力が低下する3つの大きな課題

1. 定住人口の減少

直近10年間で人口の減少に拍車がかかっており、少子高齢化が顕著になっています。若者等の市外への人口流出も増加しており、人口流出を抑制するための対策も重要な課題となっています。

2. 経済的活力の低下

人口減少と同様に市内の就業者人口の減少も進んでいます。特に雇用の受け皿となる事業者数の減少、農林水産業の担い手不足は深刻な課題であり、新たな雇用を生む産業の育成、収益力のある農業・漁業の振興が必要となっています。

3. 地域コミュニティ力の低下

人口の減少や高齢化は、まちづくりを担う人材の不足、地域内のコミュニケーションの希薄化により、まちづくりの基盤である地域コミュニティの弱体化をもたらしています。

(2) 今後の上天草市に求められる重点テーマ(SWOT 分析による戦略分析)

ランドデザインの進むべき方向を明確するため、今後の上天草市に求められるテーマを本市の内部要因(市のもつ優位性・課題)と外部要因(市と取り巻く社会情勢の機会と脅威)からSWOT 分析を行い、以下のように整理しました。

<p>上天草市の内部環境→</p> <p>上天草市の外部環境</p>	<p>強み(上天草市のもつ優位性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●雲仙天草国立公園等の美しい自然をもつ景勝地の魅力 ●多彩な観光資源と観光地としてのブランド力 ●豊富な農産物や海産物 ●温暖で過ごしやすい気候風土 ●天草四郎・南蛮文化をはじめとする歴史文化資源 ●広域における観光資源が集積する雲仙天草観光圏 	<p>弱み(上天草市のもつ課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人口減少や少子高齢化 ●市内総生産・就業人口の低下 ●行財政の硬直化(投資的財源の不足) ●市の一体的なまちづくり ●環境保全に対する取組み(浄化槽の推進等排水対策) ●大規模災害に備えた防災対策 ●児童生徒数の減少と学校統廃合 ●健康に対する意識啓発と医療体制
<p>機会 (社会潮流における発展可能性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●観光立国の推進、地域資源を生かした観光地づくりの拡大 ●安全な食に対する付加価値の高まりを活かした農業展開 ●都市住民の田舎居住や帰農志向の高まり/定住帰省の自治体間競争の激化 ●目的志向の好縁型コミュニティ・住民協働のまちづくりの拡大 ●エコ志向・健康志向・自然回帰を重視するライフスタイルの高まり ●地方分権・地域主権に向けた行政構造の転換 	<p>上天草市の優位性を活かし、発展可能性に乗じて成長する重点テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎自然・歴史文化、食の恵み等の観光資源の優位性を活かし、観光立国の推進に乗じて、更なる観光産業の成長を図る。 ◎豊かな農水産物をもつ優位性を活かし、安全・健康志向の市場ニーズを捉えた付加価値の高い産品を開発・販売する。 ◎豊かな自然・食の優位性を活かし、エコ志向・健康志向のニーズにあわせた体験観光等を開発する。 	<p>発展可能性をみて上天草市の重点課題を改善するための重点テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎都会の田舎居住や自然回帰志向の機会を捉えた定住促進による、人口減少の抑制を図るため、豊かな自然を享受できる上天草らしい満足感のある定住環境を充実させる。 ◎目的志向のコミュニティ活動を拡大し、市民の多彩な交流活動を広げることで、人口減少・少子高齢化により減退するコミュニティの活性化を図る。
<p>脅威(社会潮流における脅威)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人口減少や少子高齢化 ●地縁コミュニティの連帯感の希薄化 ●長引く国内経済の低迷/地域産業基盤の減退 ●地球温暖化/大規模災害の増加 ●医療費・社会保障費の拡大による財政負担の増加 ●子ども(親)の規範意識・学力・体力の低下 	<p>上天草市の優位性を活かし、社会の脅威を克服するための重点テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎多彩な観光資源と観光地としてのブランド力の優位性を活かし、低迷する地域産業の活性化と雇用機会の拡大を図る。 ◎自然資源の優位性を活かし、市民の健康づくりをテーマとした交流活動を充実することで、地域の連帯感、健康維持、体力向上を図る。 	<p>最悪の事態を回避するための重点テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎人口減少・少子高齢化による更なる地域コミュニティの減退を回避するために、人材育成と公民館や地域サロン等を核とした交流活動の強化を図る。 ◎少子高齢化の進行、大規模災害の増加による、地域社会の安心・安全な暮らしが損なわれぬよう、福祉環境・防災環境を強化する。

SWOT 分析とは

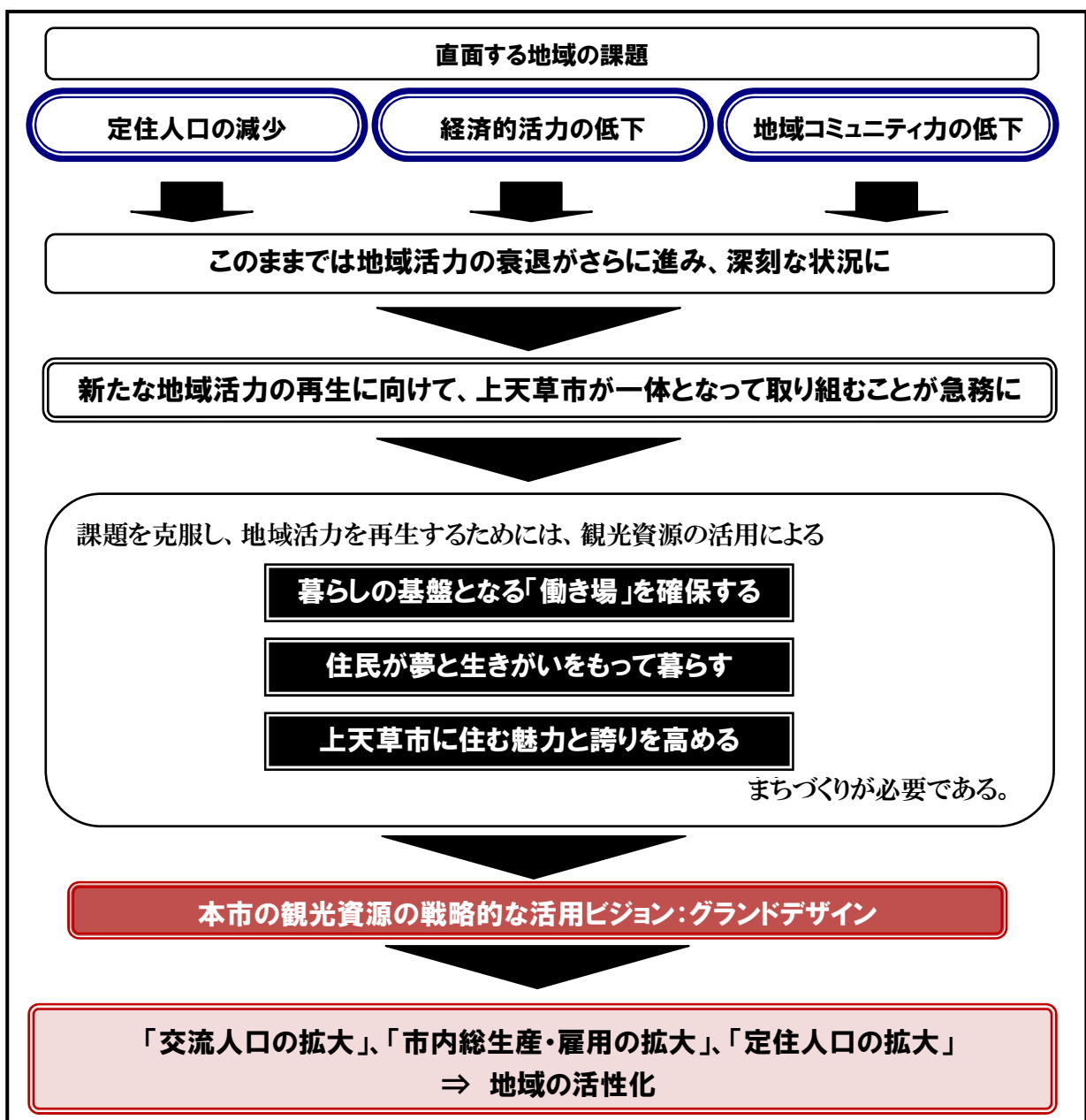
目標達成のための意思決定を行う際の、強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、機会(Opportunities)、脅威(Threats)を評価する戦略計画ツール。地域や組織の内外環境の分析を行うなど戦略パターンの検討に用いられる。

4. グランドデザインに求められる視点

求められる新たな地域活力の再生に向けた戦略ビジョンづくり

前項に示す、定住人口の減少、経済的活力の低下、地域コミュニティの低下により相乗的に地域活力の減退が進む中、この悪循環を克服し、減退の流れを抑え、新たな地域活力を再生させる取組みが急務となっています。

グランドデザインでは、これらの直面する課題を本市の強みである観光資源の活用によって克服し、市全体の地域活力の再生へつなぐまちづくりの方向性・戦略を示し、行政、地域の企業・団体・市民が一体となって取り組む目指すべき方向性を示します。



第1章 グランドデザインのコンセプト

1 グランドデザインの目指す将来像

グランドデザインは、本市の抱える3つの課題（定住人口の減少、経済的活力の低下、地域コミュニティカの低下）を克服するため、「観光ブランド力を活かした地域産業の活性化」と「上天草市らしい暮らしの満足感を感じる定住環境の充実」の2つの戦略シナリオを展開します。

そして、この戦略シナリオによる達成すべきまちの将来像を「上天草市らしさのある暮らしの喜び・幸せ・誇りを感じるまち」とし、以下のコンセプトを目指す方向として位置付けています。

<本市の抱える課題>

◎ 定住人口の減少 ◎ 経済的活力の低下 ◎ 地域コミュニティカの低下

<課題を克服する地域再生の戦略シナリオ>

戦略シナリオ1: 観光ブランド力を活かした地域産業の活性化

戦略シナリオ2: 上天草市らしい暮らしの満足感を感じる定住環境の充実

● グランドデザインの目指す将来像

<戦略シナリオによる成果>

◎ 交流人口の拡大 ◎ 市内総生産・雇用の拡大 ◎ 定住人口の拡大

上天草市らしさのある暮らしの喜び・幸せ・誇りを感じるまち

自然の恵みを受けられる喜び・幸せ・誇り

- ・美しい自然景観と共生する環境にやさしいまち
- ・農産物・海産物の恵みを受け、育てるまち

人々がふれあい・支え合い、生きがいがある喜び・幸せ・誇り

- ・多彩なコミュニティのふれあい・支え合いがあるまち
- ・生きがいとなるチャレンジができる場があるまち

安心して暮らせる喜び・幸せ・誇り

- ・安定した働く場のあるまち
- ・暮らしに必要な生活基盤・都市基盤のあるまち
- ・福祉医療環境が整ったまち

2 将来像を実現していくための戦略シナリオ

(1) 戦略シナリオの全体概要

戦略シナリオ 1

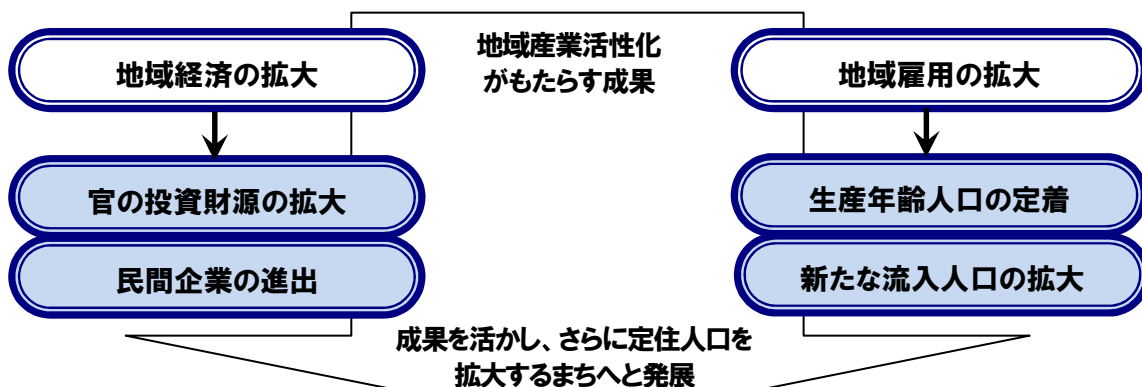
■ 地域経済の回復を優先し、「働く場」を確保することで、人口の流出を抑え、定住人口の安定と市民の活力を高める。



■ 上天草市のもつ強みは観光地としてのブランド力にあり、観光ブランド力を活かした観光産業の活性化を進めることで様々な地域産業への経済効果を波及させていく。

観光ブランド力を活かした地域産業の活性化

- 訪れたい観光地としての魅力向上 ⇒ 集客力の拡大
- 観光客に満足感を与える観光関連産業の充実 ⇒ 収益力の拡大
- 地域経済へ波及する観光交流の拡大 ⇒ 観光需要の拡大を市全域の産業へ循環



戦略シナリオ 2

上天草らしい満足感のある定住環境の充実

美しい自然を守り、育てる環境にやさしいまちの形成

高齢者にやさしい福祉環境の充実

利便性の高い市街地、地域拠点の形成

安心できる子育て環境、文化・スポーツ環境の充実

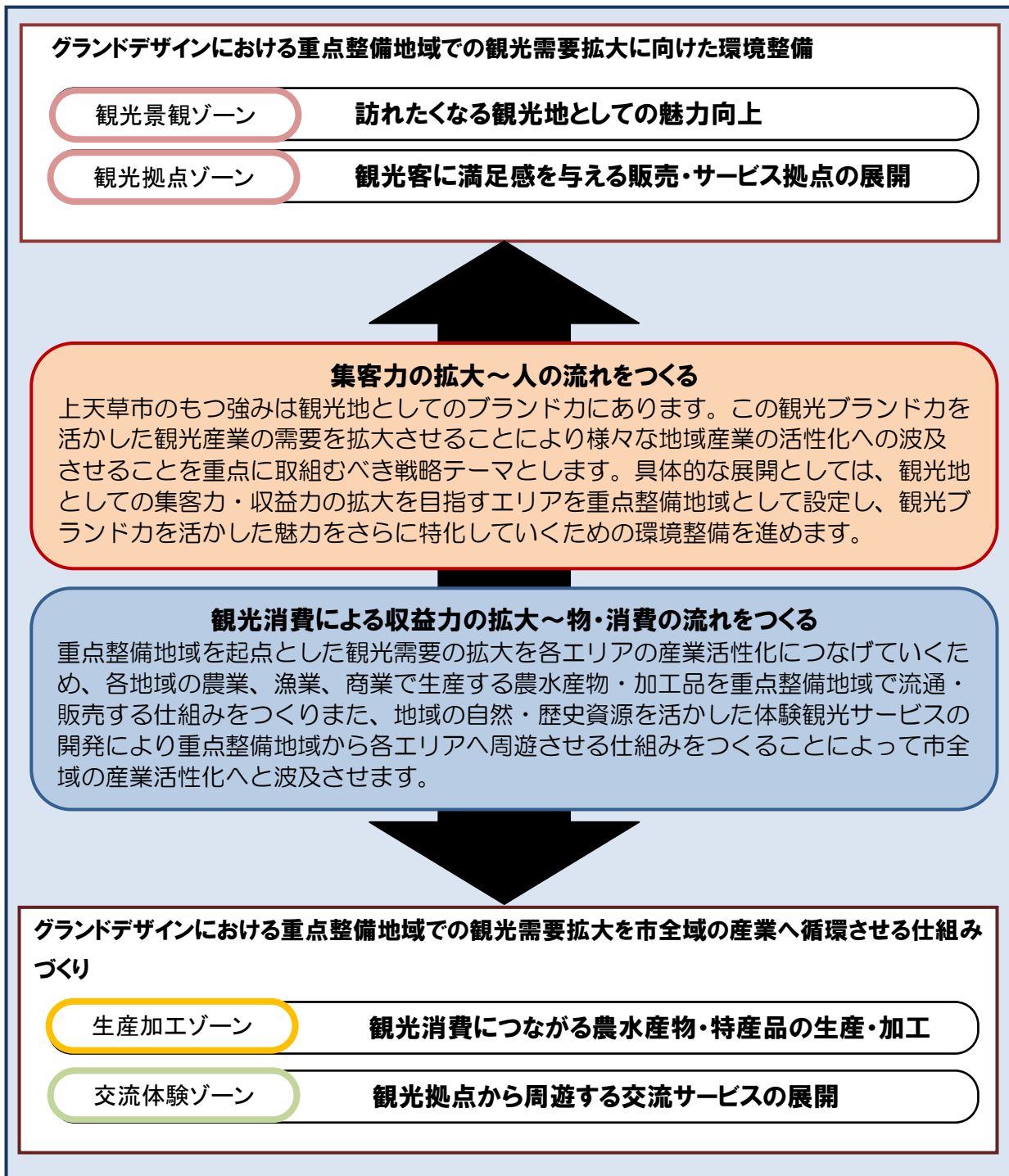
魅力ある住環境の形成

各地区の多彩な市民活動を広げる場の充実

◎ 交流人口の拡大 ◎ 市内総生産・雇用の拡大 ◎ 定住人口の拡大

(2) 戦略シナリオ1 観光ブランド力を活かした地域産業の活性化

■ 戦略シナリオ1のポイント



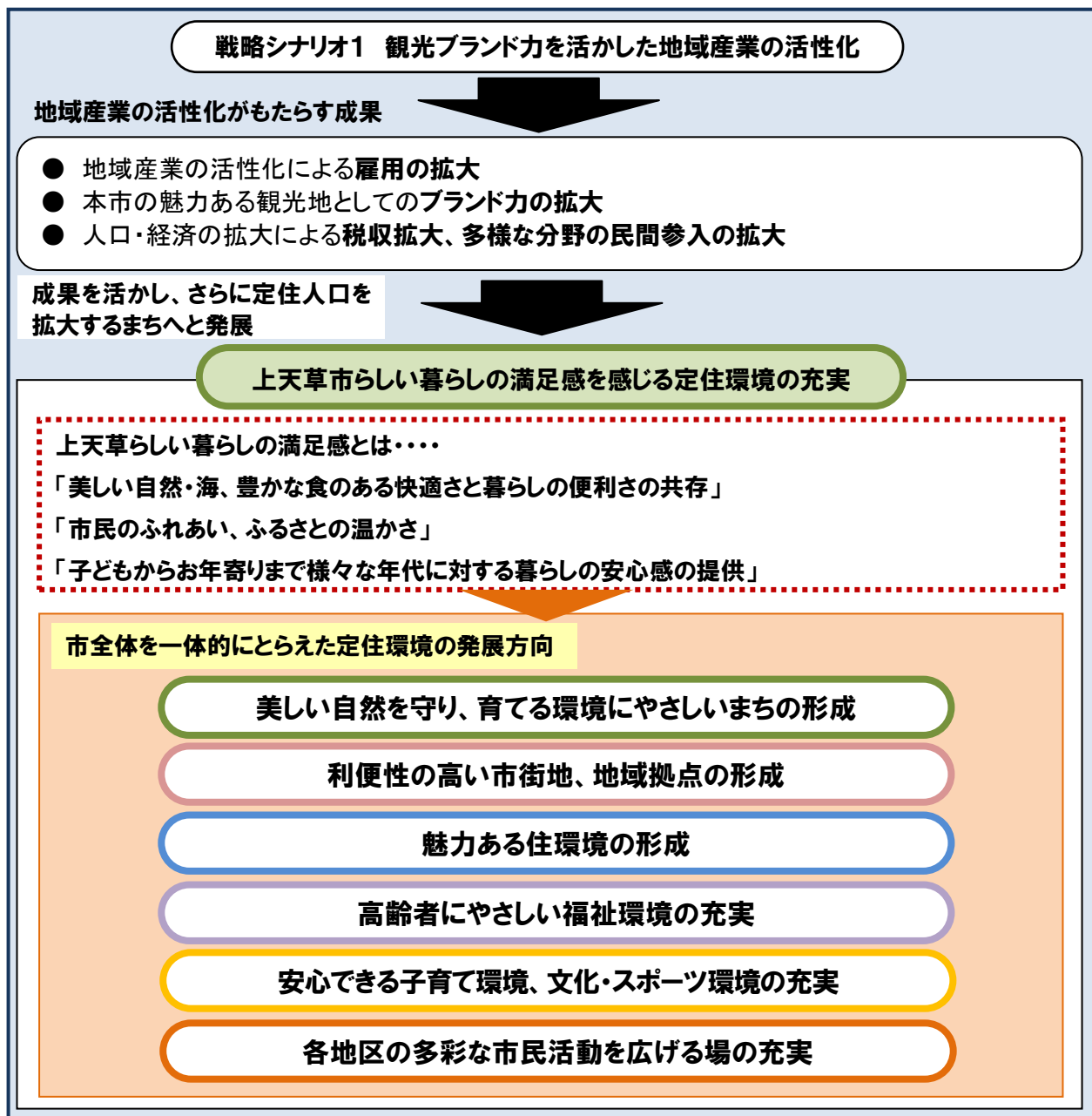
(3) 戦略シナリオ2 上天草市らしい暮らしの満足感を感じる定住環境の充実

■ 戦略シナリオ2のポイント

① 産業の活性化の成果を活かし、相乗効果として上天草らしい定住環境の充実を図る

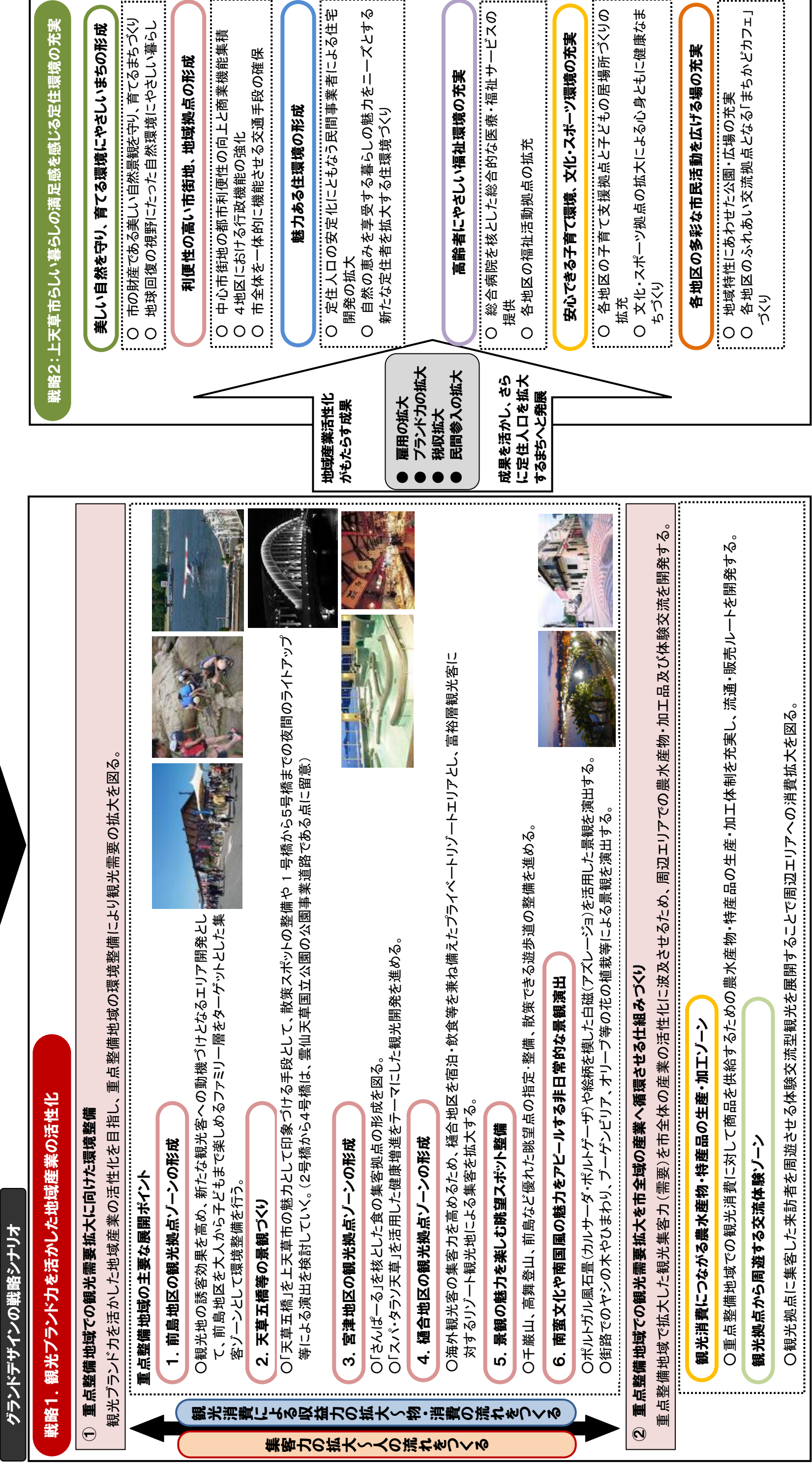
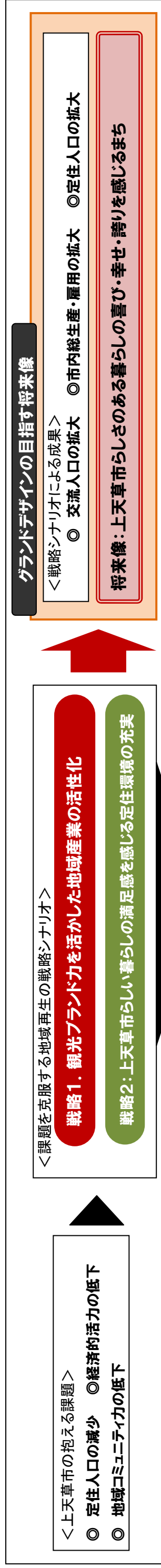
戦略シナリオ1の実践により、地域産業の活性化、雇用の拡大の成果を達成することで、相乗的に上天草らしい暮らしの満足感を感じる定住環境の充実を図り、市民が住み続けたい、新たな定住者が住みたいまちへと発展させていきます。

＜戦略シナリオ2:上天草らしい満足感のある定住環境の充実の展開フロー＞



なお、上天草市の一部は雲仙天草国立公園に指定されているため、国立公園内におけるランドデザインの具体的詳細は、自然公園法の目的・趣旨及び関係規則に従うとともに、関係ガイドライン等を十分考慮したものとします。

3 グランドデザインの全体図



第2章 グランドデザインの具体的な戦略展開案

1 戦略シナリオ1 観光ブランド力を活かした地域産業の活性化

(1) 重点整備地域での観光需要拡大に向けた環境整備

観光ブランド力を活かした地域産業の活性化を目指し、重点整備地域を設定し、観光集客力（需要）の拡大から観光消費による収益力拡大を図ります。

① 整備方針

観光景観ゾーン

訪れたい観光地としての魅力向上

○ 観光ブランド力を高める景観づくり

上天草市のブランド力の核である天草五橋、自然景観、南蛮文化の歴史ロマンの魅力をさらに高める環境整備により、訪れてみたい観光地としての集客効果を高めます。

○ 景勝地としてのロケーションを堪能できる拠点づくり

来訪者が滞在、散策し、景観を楽しむことができるスポットを整備し、集客効果を高めます。

観光拠点ゾーン

観光客に満足感を与える販売・サービス拠点の展開

○ 集客効果を高める観光拠点の整備

来訪者の動機づけとなる観光拠点の整備により集客効果を高めます。

○ 観光客に満足感を与える販売・サービス拠点の展開

集客力の拡大を消費の拡大につなげていくため、上天草の魅力である自然・農水産物を活かした地元産品・特産品の販売や飲食等のサービスを強化します。

② 具体的戦略展開案

観光景観ゾーン

訪れたい観光地としての魅力向上

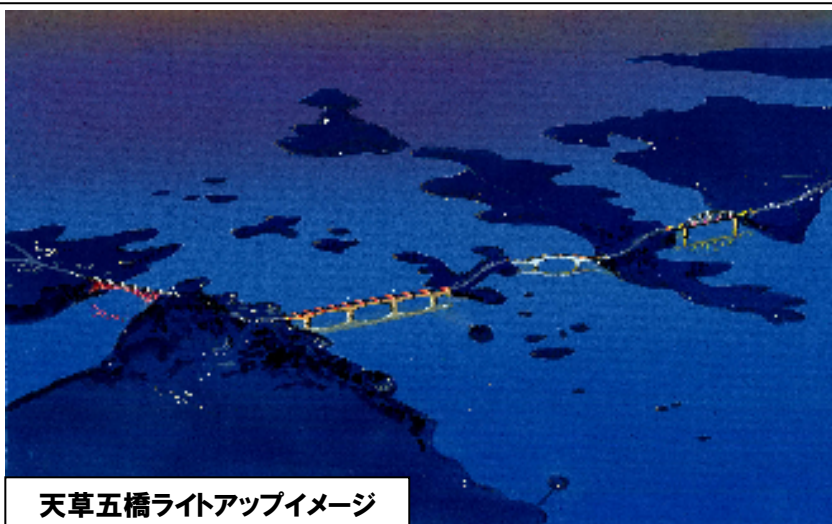
1) 天草五橋等の景観づくり

「天草五橋」を中心に東大維橋、西大維橋、樋島大橋等の島々を架ける「橋」は上天草市を象徴するシンボルであり、魅力ある観光資源です。

この上天草市の特徴的な資源をアピールすることは、上天草市の魅力を印象づける最も有効な手段となるため、観光的な演出を進めることにより観光需要の拡大に繋がります。

○橋夜間ライトアップによる演出

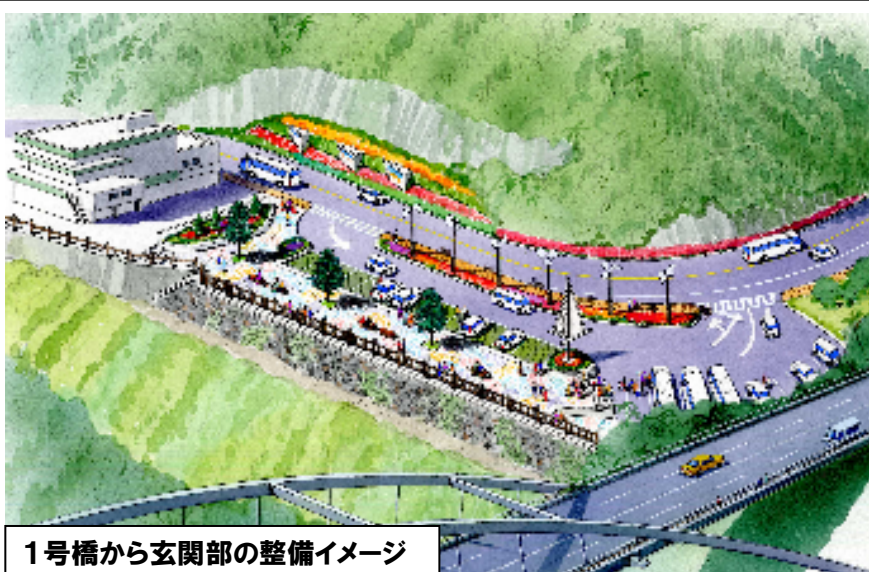
日中での景観に加え、夜間でも観光客が訪れる魅力をつくるため、天草五橋のライトアップによる演出について調査し、検討していきます。(2号橋から4号橋は、雲仙天草国立公園の公園事業道路である点に留意)



天草五橋ライトアップイメージ

2) 上天草の玄関部の景観形成

上天草市の玄関部である天門橋周辺での観光地にふさわしい景観イメージを形成するため、花植栽やモニュメント等による環境整備を進めます。



1号橋から玄関部の整備イメージ

3) 観光ルートとなる街路の景観づくり／

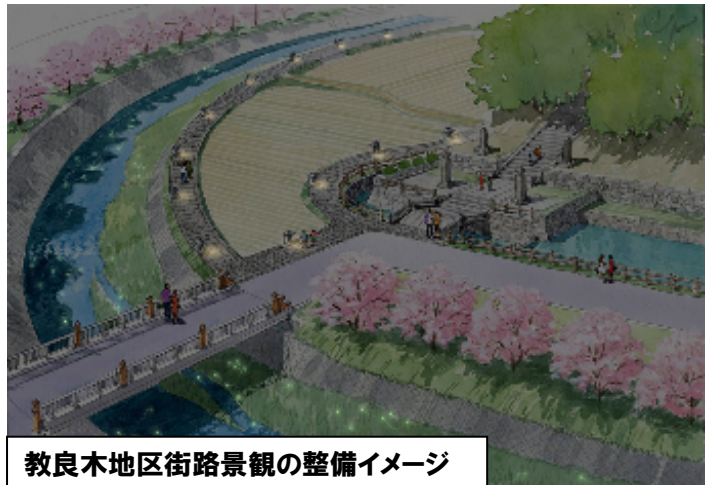
南蛮文化や南国風景等をもつ魅力をアピールする観光地としての非日常的な景観演出

観光地としての非日常感を来訪者に印象づけるため、街路でのヤシの木やひまわり、ブーゲンビリア、オリーブ等の花の植栽等による景観づくりを行います。教良木地区ではホテル観賞等の自然散策路を演出する景観整備を行います。

また、上天草市を特徴づけるもう一つの魅力は南蛮文化・キリシタン文化の歴史に培われた風土であり、この独特な風土をもった観光リゾート地としての魅力を演出する方法として、南蛮文化の由来であるポルトガル調の景観演出を整備していきます。



さんばーる周辺エリアの観光景観整備イメージ



教良木地区街路景観の整備イメージ

○観光エリア(樋合地区、前島地区等)でのポルトガル風街路や案内等の整備

ポルトガルの石畳は「カルサーダ・ポルトゲーザ」と言われる独特の模様や図柄を敷き詰めており、石畳を見て歩いて楽しむことが観光の一つとなっています。また、絵柄を模した白磁(タイル)の「アズレージョ」も独特の景観資源となっており、天草陶器をつかった天草アズレージョとして周辺地域でも盛んになっています。これらの南蛮文化をイメージさせる景観演出を取り入れた環境を整備することで、特色ある上天草市の観光イメージを訴求していきます。



4) 景観を楽しむ眺望スポットの整備

松島の美しい景観は上天草市の最も魅力ある観光資源です。景勝地としての魅力を来訪者が堪能できる環境づくりとして、千巖山、高舞登山、前島など優れた眺望点の指定・整備、散策できる遊歩道の整備を進め、観光客が回遊し、景観を楽しむ拠点とします。



千巖山展望スポットの整備イメージ



天草五橋展望スポットの整備イメージ

5) 快適な観光動線の確保／港を活用した水路ルートの開発

観光客の市内観光エリアへのアクセス及び周遊環境を向上させていくために必要な観光動線の確保を進めます。特に、交通渋滞が課題となる大矢野エリアの道路環境改善を含めた都市基盤整備を進めるとともに、各地区の港を有効に活用し、船便による観光ルートを開発を進めていきます。

1) ファミリー層等の新たな観光客獲得への誘客効果を高める前島地区の観光エリア開発

観光地の誘客効果を高め、新たな観光客への動機づけとなるエリア開発として、前島地区を大人から子どもまで楽しめるファミリー層をターゲットとした集客ゾーンの環境整備を進めます。

特に、「さんぱーる」との差別化を図った、食と体験を兼ね備えた飲食・販売拠点、シュノーケリング、海洋観察など子どもの体験型観光の開発、海と空から景観を楽しむクルージング機能の強化等により、観光客の新たな来訪目的となる魅力を拡大した拠点形成を進めます。



前島地区の観光拠点整備イメージ

2) さんぱーる周辺の観光機能の拡充

「スパ・タラソ天草」を活用した健康増進をテーマにした観光プログラムの開発

上天草市の新鮮な食の販売・飲食を堪能できる拠点である「さんぱーる」の物産・飲食機能を拡充するとともに、中心的な観光エリアとしての景観演出、交通拠点機能の強化を図ります。

また、「スパ・タラソ天草」の温浴施設としての機能、タラソセラピー等の健康・美容増進のための機能を有効に活用し、市民利用はもとより、自然散策やスポーツ活動等での来訪者の施設利用につなげる連動したプログラムの開発を進め、豊かな自然のもとで心身ともにリフレッシュできる観光地としての魅力を拡大していきます。



さんぱーる周辺エリアの観光景観整備イメージ

3) 海外富裕層をターゲットとしたプライベートリゾート空間としての樋合地区の観光エリア開発

海外観光客の集客力を高めるため、樋合地区を宿泊・飲食等を兼ね備えたプライベートリゾートエリアとし、富裕層観光客に対するリゾート観光地による新たな集客を拡大します。



■【重点整備地域での観光需要拡大に向けた環境整備】展開一覧

(1) 観光景観ゾーン

●街路景観づくり	市内全域
観光ルートとなる幹線道路の景観整備、教良木地区の自然散策路の景観整備	
●天草五橋等の景観づくり	天草五橋等
観光シンボルである天草五橋の散策スポットの整備、五橋のライトアップの検討等	
●上天草の玄関部の景観形成	天門橋周辺
玄関部である天門橋周辺での、花植栽やモニュメント等による観光地にふさわしい景観整備	
●景観スポット整備	千巖山・高舞登山・前島
松島(夕陽)を眺望できる観光スポットとしての環境整備	
●南蛮文化を演出する街路景観整備	前島地区、樋合地区、松島庁舎周辺、宮津地区など
南蛮文化の由来であるポルトガル調の街路や案内板の整備	

(2) 観光拠点ゾーン

●新鮮な食の販売・飲食拠点の整備	前島地区
●さんばー周辺の施設機能の拡充	宮津地区
豊かな海・山の幸を堪能できる A 級の食の魅力を発信する拠点整備	
●空中遊覧サービスの展開	前島地区
●体験型観光による集客拠点形成	中島
観光地のアミューズメントとしての魅力を発信できる拠点の整備	
●健康増進をテーマにした観光拠点形成	大矢野地区等
「スパ・タラソ天草」を核に自然散策やスポーツ活動と連動した健康増進型観光を推進	
●景観スポット整備	千巖山・高舞登山・前島
景勝地としての魅力を堪能できる優れた眺望点の指定・整備	

(2) 重点整備地域での観光需要拡大を市全域の産業へ循環させる仕組みづくり

重点整備地域を起点とした観光需要の拡大を各エリアの産業活性化につなげていくため、各地域の農業、漁業、商業で生産する農水産物・加工品を重点整備地域で流通・販売する仕組みをつくりまします。

また、地域の自然・歴史資源を活かした体験観光サービスの開発による重点整備地域から周遊させる仕組みづくりを進め、市全域の産業活性化へと波及させていきます。

① 整備方針

生産加工ゾーン	観光消費につながる農水産物・特産品の生産・加工
観光消費の拡大を地域の産業へと波及させるため、商品を生産する農水産物・特産品の生産・加工体制を充実し、重点整備地域での流通・販売に対して商品・産品を生産していき機能を充実させていきます。	
交流体験ゾーン	観光拠点から周遊する交流サービスの展開
重点整備地域に集客した来訪者を市内に周遊させる体験交流型観光を展開することで周辺エリアへの消費拡大を図ります。	

■【重点整備地域での観光需要拡大を市全域の産業へ循環させる仕組みづくり】展開一覧

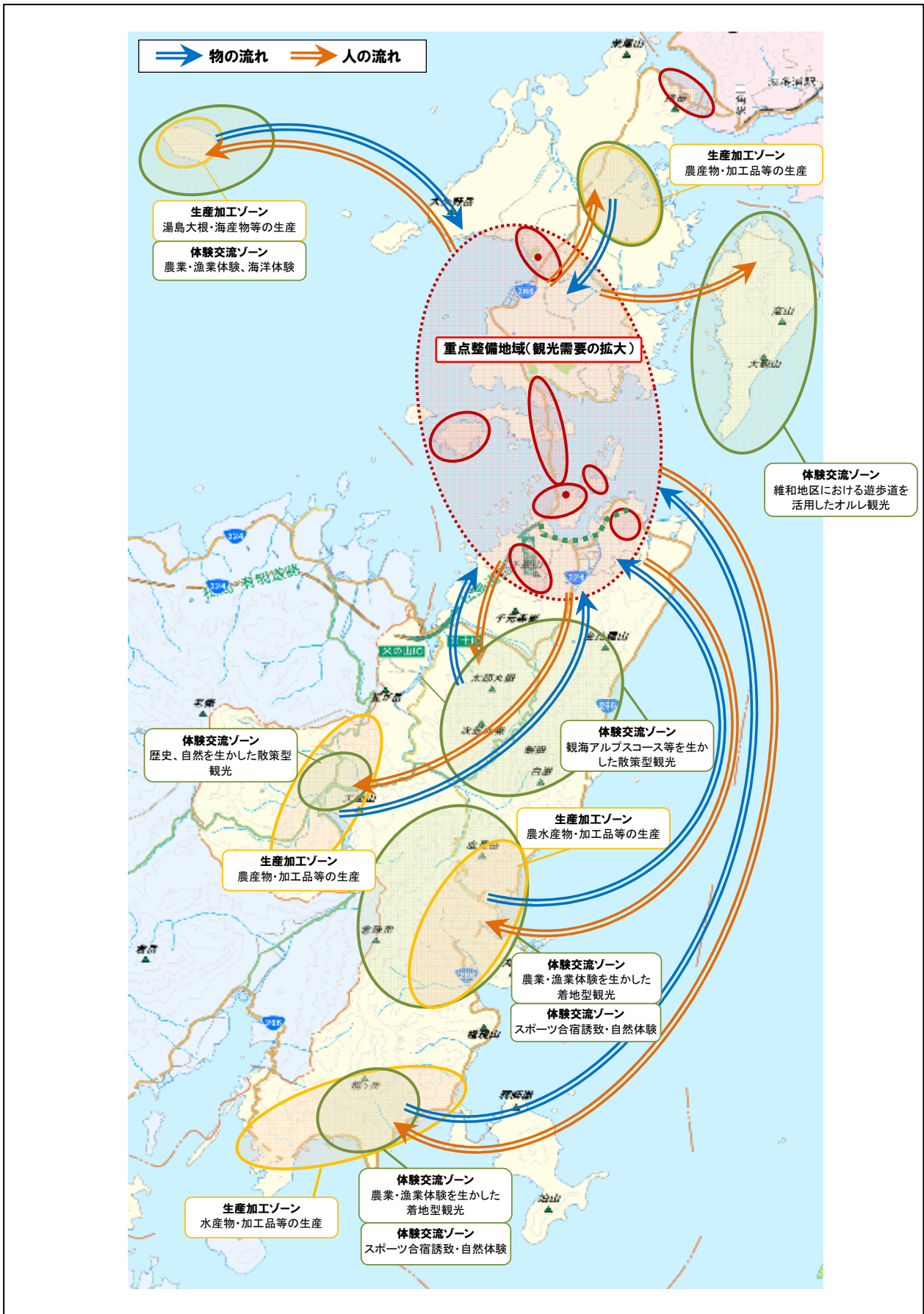
(1) 生産加工ゾーン

●農産物・水産物の生産・加工品の製造	龍ヶ岳地区、 姫戸地区、 湯島地区、 大矢野地区、 教良木地区
観光拠点へ供給する農産物・水産物・特産品の生産・加工体制の充実	

(2) 交流体験ゾーン

●オルレ観光等に向けた自然散策ルート整備	維和地区等
●観海アルプスルート等の自然散策ルート開発	観海アルプスルート等
●自然と歴史の散策ルート開発	教良木地区
地域の自然、歴史を活かした散策ルート開発による体験観光の推進	
●漁業・農業の体験観光開発	全域
各地域の産業基盤を活かした産業体験、農家民泊等の体験観光の推進	
●海での体験観光開発	湯島地区等
海の魅力を体験するダイビング等の体験観光の推進	
●スポーツ合宿の団体誘致や子ども向け自然体験観光の開発	姫戸地区 龍ヶ岳地区
キャンプ場等を活用し、スポーツ合宿等の団体誘致や子どもの自然体験等交流活動の推進	

<ゾーニング図>



2 戦略シナリオ2 上天草らしい満足感のある定住環境の充実

戦略シナリオ1の実践により、地域産業の活性化、雇用の拡大の成果を達成することで、相乗的に上天草らしい暮らしの満足感を感じる定住環境の充実を図り、市民が住み続けたい、新たな定住者が住みたいまちへと発展させていきます。

① 美しい自然を守り、育てる環境にやさしいまちの形成

<まちづくりの発展方向>

- 市の財産である美しい自然景観を守り、育てるまちづくり
豊かな海、山、田園風景は本市の暮らしの豊かさの象徴であり、観光地としての魅力でもあります。この美しい自然景観を後世に残す貴重な財産として、市民と行政がともに守り、育てるまちをつくります。
- 地球回復の視野にたった自然環境にやさしい暮らし
自然環境にやさしいまちとして、環境負荷の少ないエネルギーを活用するスマートグリッドなまちをつくります。



環境負荷の少ないエネルギーを活用するスマートグリッドなまちイメージ

② 利便性の高い市街地、地域拠点の形成

<まちづくりの発展方向>

- 中心市街地の都市的な利便性の向上と商業機能の集積
大矢野・松島地区における都市開発を進め、観光振興と連動した利便性の高い市街地を形成し、商業施設が集積したまちをつくります。
- 4地区における行政機能の強化
4地区の行政拠点の機能強化を進め、幅広い地域振興の活動拠点として展開するまちをつくります。
- 市全体を一体的に機能させる交通手段の確保
各地域から市内主要施設へアクセスできる公共交通の利便性を確保し、市全体の拠点を有効に機能させるまちをつくります。



大矢野地区周辺整備イメージ

③ 魅力ある住環境の形成

<まちづくりの発展方向>

- 定住人口の安定化にともなう民間事業者による住宅開発の拡大
産業基盤の安定、雇用の拡大の成果にあわせた相乗効果として、民間による住宅開発を促進し、住環境が向上するまちをつくります。
- 自然の恵みを楽しむ暮らしの魅力新たな定住者を拡大する住環境づくり
自然景観にマッチした住宅、菜園付き住宅など、本市の暮らしに魅力をもった市外からの定住希望者のニーズにあった住宅環境を民間事業者とともに開発し、定住環境としての魅力の高いまちをつくります。

④ 高齢者にやさしい福祉環境の充実

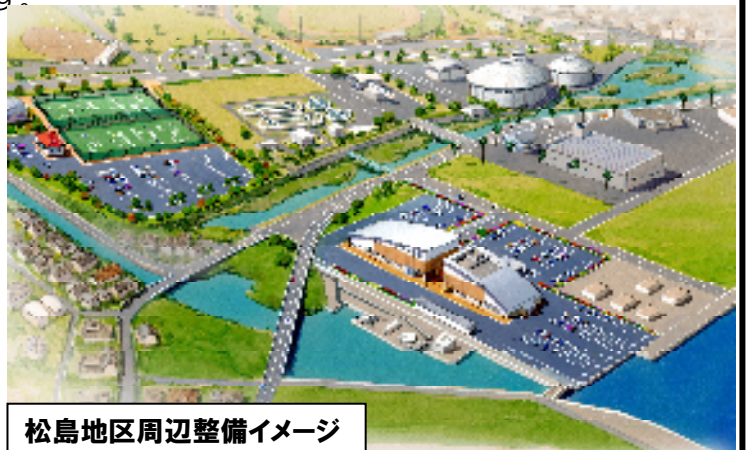
<まちづくりの発展方向>

- 総合病院を核とした総合的な医療・福祉サービスの提供
総合病院、看護専門学校が集積する龍ヶ岳エリアの強みを活かし、高齢者の健康管理、リハビリ、医療を一体的に提供できるまちをつくります。
- 各地区の福祉活動拠点の拡充
各地域で空家や公民館を活用し、展開されている「地域の縁がわ」「地域サロン」事業を拡充し、高齢者の生きがいづくり、地域住民の交流の広がる場をつくります。

⑤ 安心できる子育て環境、文化・スポーツ環境の充実

<まちづくりの発展方向>

- 各地区の子育て支援拠点と子どもの居場所づくりの拡充
定住者の子育てニーズに対応できる環境づくりとして子育て支援センターや保育所による子育て相談、預かり保育の充実を図るとともに、地区福祉活動拠点との連動により児童生徒の交流の場づくりを展開するまちをつくります。
- 文化・スポーツ拠点の拡大による心身ともに健康なまちづくり
松島総合センター「アロマ」、松島総合運動公園等を核に松島地区の文化・スポーツ拠点としての機能が集積したまちをつくります。
また、市外からのスポーツ合宿等を誘致する拠点として各地区の既存施設を活用するとともに、地区住民の健康増進に向けた取組みの拠点として市民活動が広がるまちをつくります。

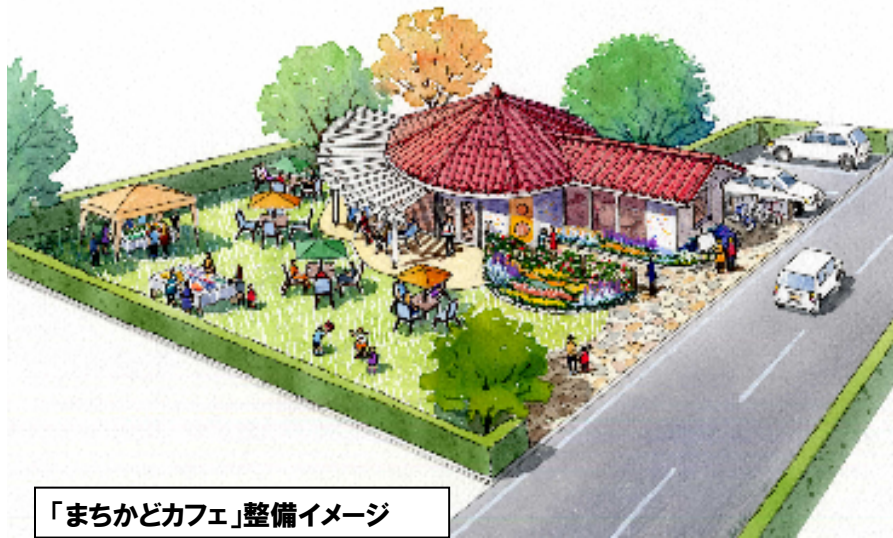


松島地区周辺整備イメージ

⑥ 各地区の多彩な市民活動を広げる場の充実

<まちづくりの発展方向>

- 地域特性にあわせた公園・広場の充実
地域の景観形成、イベント等のコミュニティ活動、観光等の来訪者との交流の場づくり等への活用となる公園・広場を整備します。
- 各地区のふれあい交流拠点となる「まちかどカフェ」づくり
地区福祉活動拠点との併用も含め、市民の日常的な交流やイベント等による来訪者との交流の場として、統一した建物デザインによる「まちかどカフェ」を各地区に整備し、本市のシンボリックな交流スポットとして幅広い交流活動が展開されるまちをつくります。



「まちかどカフェ」整備イメージ